



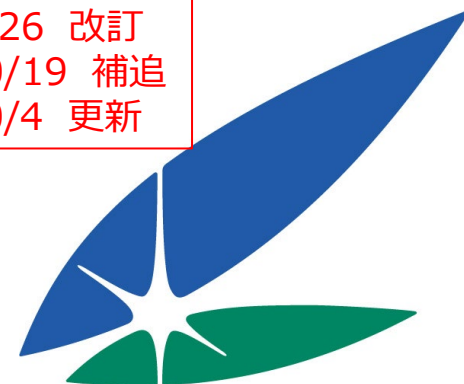
SIP第3期 課題評価の進め方

令和 5年 6月 13日

内閣府

科学技術・イノベーション推進事務局

R5 6/26 改訂
R5 10/19 補追
R6 10/4 更新



1. SIP評価に関する運用指針

2. 課題評価の流れ

2-1. 自己点検報告書

2-2. ピアレビュー・課題評価

3. 課題評価シートの詳細

目的

- S I Pでは、我が国が目指す社会像（Society 5.0）の実現に向けたミッションを達成するため、社会実装に向けた戦略を設定し、S I Pとして取り組むべき研究開発テーマを特定し、研究開発の進捗や経済・社会情勢の変化を踏まえ、P D C Aを回しながら、機動的かつ総合的に研究開発（ミッション志向型の研究開発）に取り組むことを目指している。また、社会実装に向けて、技術に限らず、事業、制度、社会的受容性、人材といった幅広い視点（社会実装に向けた5つの視点）から取り組むことを目指している。
- これらは、前例がないチャレンジングな取組であり、始めから完全なものではなく、制度、課題の両面から見直しを行いながら、プログラムを推進することが必要である。
- そのため、S I Pの制度全体に関する評価（以下「制度評価」という。）と、S I Pの各課題に関する評価（以下「課題評価」という。）を評価の両輪として実施する。
- 制度評価は、実際の制度の運用状況进行评估し、S I Pの制度設計にフィードバックするとともに、我が国全体の科学技術イノベーション政策の企画・立案に生かすものとする。
- 課題評価は、ミッション志向型の研究開発を機能させるべく、P D C Aサイクルを回し、各段階での進捗状況等を踏まえ、継続的かつ迅速（アジャイル）に計画・テーマ設定の見直しを進めるものとする。

方針

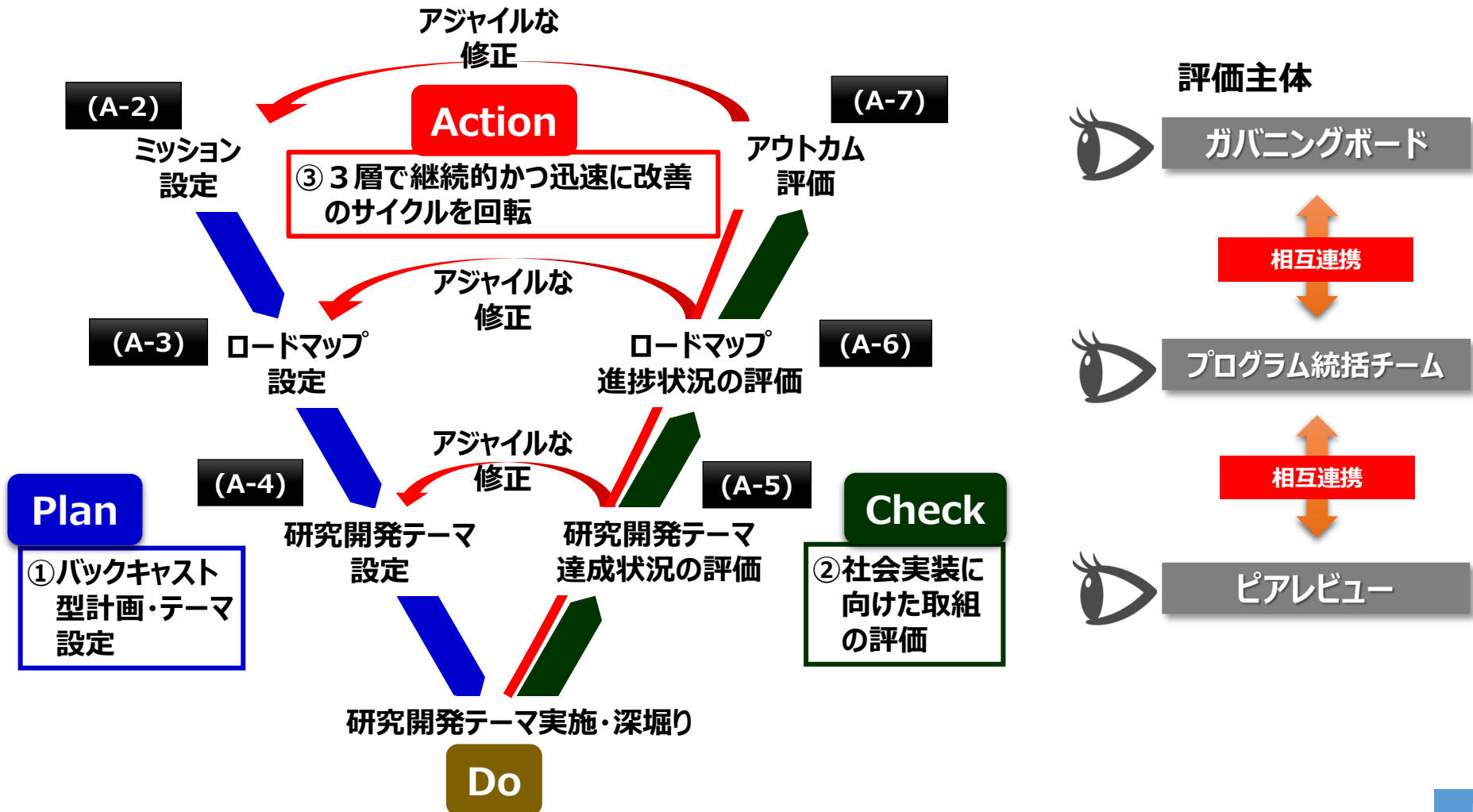
- 「国の研究開発評価に関する大綱的指針（平成28年12月21日、内閣総理大臣決定）」を踏まえ、必要性、効率性、有効性等を評価する観点から、以下の評価項目・評価基準とする。達成・未達の判定のみに終わらず、その原因・要因等の分析や改善方策の提案等も行う。

評価項目・評価基準

- 以下の2項目に基づき評価を行う。
 - A. 課題目標の達成度と社会実装**
 - B. 課題マネジメント・協力連携体制**
- Aでは、ミッションの明確化から個別の研究開発テーマの設定に至る計画・テーマ設定に係る評価（A-2からA-4まで）と、個別の研究開発テーマの達成度から研究成果の社会実装に至る進捗状況等に係る評価（A-5からA-7まで）を一体的に実施することで、PDCAサイクルを回し、各段階での進捗状況等を踏まえ、継続的かつ迅速（アジャイル）に計画・テーマ設定の見直しを行う。
- Bでは、社会実装に向けて、課題目標を達成するための実施体制はもちろん、府省連携、産学官連携、テーマ間・課題間の連携、データ連携についても評価を行う。

課題評価の考え方：「A. 課題目標の達成度と社会実装」

- V字モデル(①バックキャスト思考、②社会実装に向けた評価、③アジャイルな修正)による評価
- ① Society5.0実現に向けたビジョンの下に、バックキャストによるミッション・ロードマップ・テーマの設定
 - ② テーマの達成度、ロードマップの進捗状況、社会実装に向けた取組・波及効果の評価
 - ③ 本評価により、3層で「計画・運用・評価・改善」のサイクルを継続的かつ迅速に回転するガバナンスモデルを構築



評価項目：A. 課題目標の達成度と社会実装①

SIP評価に関する運用指針
(令和4年12月23日)

項目	評価内容
A-1 意義の重要性、SIP制度との整合性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題全体を俯瞰的にとらえ、Society5.0の実現に向けて将来像を描いているか。 ・技術開発のみならずルール整備やシステム構築などに必要な戦略が検討され、SIP制度との整合性が図れているか。 ・次期SIP課題として必要な「要件」（別紙）を満たしているか。
A-2 ミッションの明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像の実現に向けたミッションが明確となっているか。 ・関係省庁を巻き込んだ協力体制の下に、課題の解決方法が特定され、ミッション遂行が実現可能なものであるか。
A-3 目標設定・全体ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションを達成するために、現状と課題を調査し、ロジックツリー等を活用し、社会実装に向けて、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む5つの視点で、必要な取組を抽出されているか。 ・抽出した取組について、既存の産学官での取組を把握した上で、SIPの要件及び本評価基準を踏まえ、SIPの研究開発テーマを特定しているか。 ・SIP終了時の達成目標が設定されており、実現可能なものであるか（なお、SIP期間中において目標は常に見直し、アジャイルな修正も可とする。） ・SIPの研究開発テーマを含む必要な取組について、社会実装に向けたロードマップを作成し、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む5つの視点で、戦略的かつ明確になっているか。また、これら5つの視点の成熟度レベルを活用しながら、指標が計測量として用いられ、進捗度が可視化されているか。 ・データプラットフォームの標準化戦略を見据え、全体のデータアーキテクチャーを見据えたデータ戦略は設定されているか。 ・スタートアップに関する戦略は設定されているか。
A-4 個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ・RFIの内容を吟味し、個別の研究開発テーマの設定が決め打ちではなく、社会課題を基に一定の範囲から絞り込まれているか。 ・個別の研究開発テーマの設定は国際競争力調査や、市場・ニーズ調査、有識者や関係者へのヒアリングなど、エビデンスベースでの理由で裏打ちされているか。 ・個別の研究開発テーマの目標及び工程表は明確であり、実現可能なものであるか。 ・個別の研究開発テーマの目標は課題全体の目標(A-3)を満足しているか。

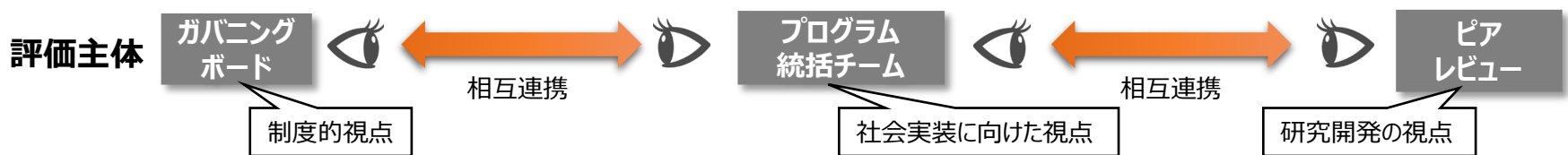
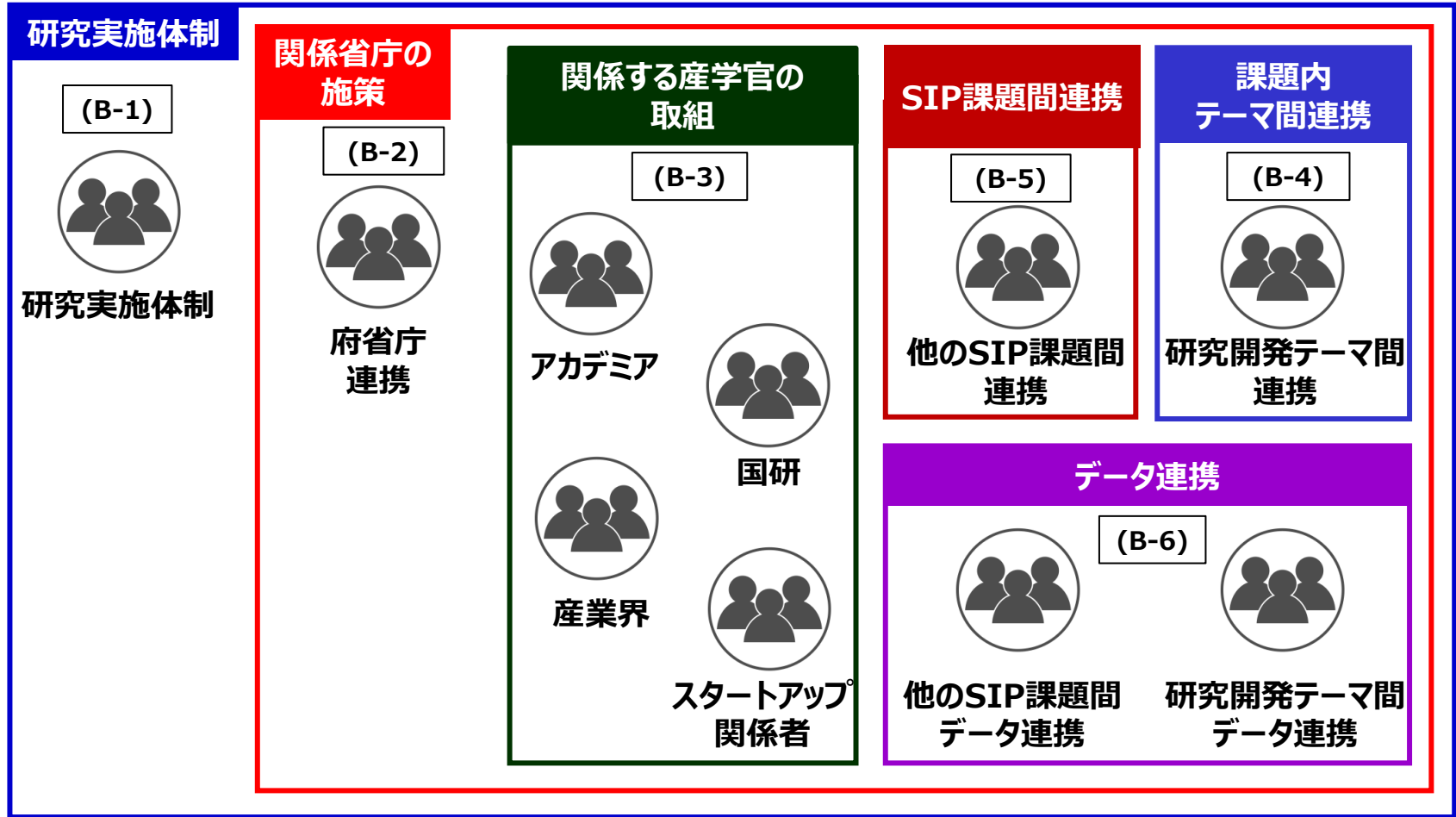
評価項目：A. 課題目標の達成度と社会実装②

SIP評価に関する運用指針
(令和4年12月23日)

項目	評価内容
A-5 研究開発テーマの設定目標に対する達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の研究開発テーマについて、当該年度の設定目標に対する達成度（進捗状況）は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。） ・得られた成果の新規の学術的・技術的価値は何か。 ・得られた成果は課題全体の目標に対してどの程度貢献しているか。
A-6 社会実装に向けた取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・知財戦略や国際標準戦略などを含む事業戦略、規制改革等の制度面の戦略、社会的受容性の向上や人材の戦略は設定され、その取組状況は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。） ・データ戦略の取組状況は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。） ・スタートアップに関する戦略の取組状況は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。）
A-7 研究成果の社会実装及び波及効果の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果によって見込まれる効果あるいは波及効果が明確であるか。（科学技術の進展、新製品・新サービス等への展開、市場への浸透や社会的受容性への影響、政策への貢献、人材育成への貢献など。定量的表現が望ましい。） ・(A-5)(A-6)を踏まえて、技術、事業、制度、社会的受容性、人材の5つの視点からロジックツリー等を用いて研究成果の社会実装への道筋が明確に示されているか。 ・開発する技術の優劣に関する国際比較、当該技術の強み・弱み分析、国際技術動向の中での位置づけなど、グローバルベンチマークの結果が示されているか。
A-8 対外的発信・国際的発信と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意義や成果に関して効果的な対外的発信の計画が検討され、実施されているか。 ・国際的な情報発信や連携の取組の進捗はあるか。
A-9 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の特性や状況に応じ、上記の(A-1)～(A-8)以外に、課題目標の達成度と社会実装の観点から評価すべきこと（プラス評価になること）があれば追加可。

課題評価の考え方：「B. 課題マネジメント・協力連携体制」

- ① 研究実施体制を基に、② 関係省庁の施策、③ 関係する産学官の取組、
- ④ 課題内のテーマ間連携、⑤ 他のSIP課題間連携・シナジー効果、
- ⑥ データ連携（課題内テーマ間、他のSIP課題間）、について評価



評価項目：B. 課題マネジメント・協力連携体制

SIP評価に関する運用指針
(令和4年12月23日)

項目	評価内容
B-1 課題目標を達成するための実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・P D、S P D、研究推進法人の役割分担と、それに見合う配置が図られているか。 ・メンバーの配置や役割分担について明確に構造化が図られているか。知財・国際標準・規制改革に関する専門家や、社会実装に関する業務の担当者等が配置されているか。 ・研究開発テーマ設定時の前提条件の変更や研究成果の達成状況に応じて、研究開発テーマの方向性の再検討やアジャイルな修正が生じた際に、関係者間で合意形成を図る流れが明確になっているか。 ・消費者視点での社会的受容性の観点や多様な観点から運営を推進するため、S P Dや研究開発テーマ責任者等に若手や女性などダイバーシティを考慮したチーム構成計画としているか。
B-2 府省連携	<ul style="list-style-type: none"> ・関係府省の担当者を巻き込み、各府省の協力・分担が明確な体制になっているか。 ・各府省等で実施している関連性の高い研究開発プロジェクトとの連携が図られているか。 ・関係省庁の事業との関係性をマッピングするなどの整理がなされ、重複が無いようSIP以外の事業との区別は出来ているか。
B-3 産学官連携、スタートアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実装に向けた産業界の意欲・貢献を促すべく、産学官連携が機能する体制が構築されているか。研究成果の利用者は明確となっているか。 ・マッチングファンド方式の適用に向けた検討がされているか。 ・本来、民間企業で行うべきものに国費を投じていないか。 ・マネジメント体制の中にスタートアップ関係者が配置されているか。
B-4 課題内テーマ間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発テーマ間での連携やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に研究開発テーマ間の連携に必要な担当者が配置されているか。
B-5 SIP課題間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・他のS I P課題間での連携やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に他のS I P課題間の連携を担当する者が配置されているか。
B-6 データ連携	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発テーマ間や、他のS I P課題間でのデータ連携が検討・実施されているか。 ・既存のデータプラットフォームとの連携の可能性は検討されているか。
B-7 業務の効率的な運用	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインツールの活用など業務の効率的な運用が実施されているか。 ・ベストプラクティスの共有、活用などが実施されているか。
B-8 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の特性や状況に応じ、上記の(B-1)～(B-7)以外に、マネジメントの観点から評価すべきこと（プラス評価になること）があれば追加可。

1. SIP評価に関する運用指針

2. 課題評価の流れ

2-1. 自己点検

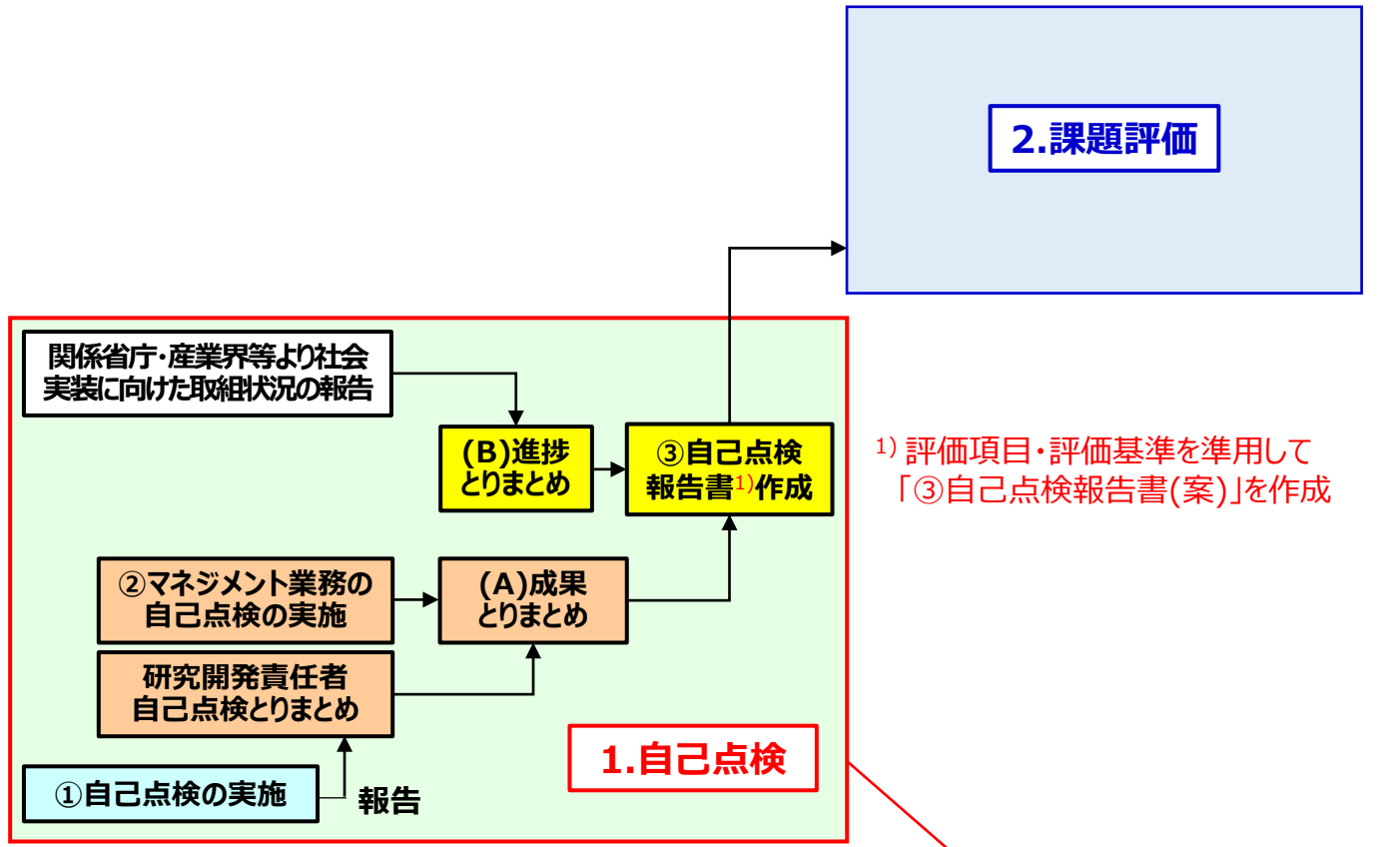
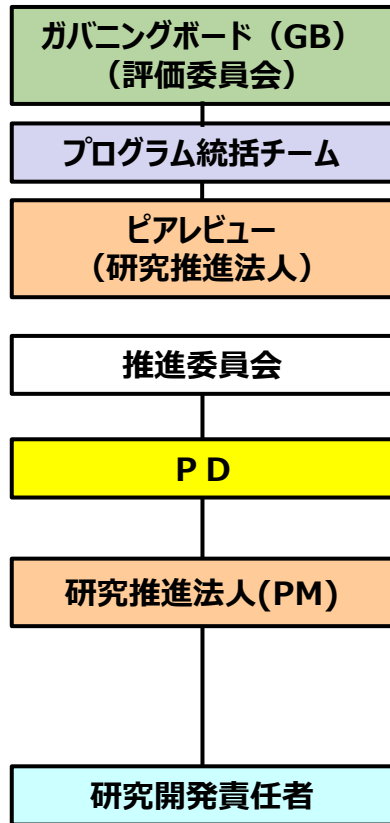
2-2. ピアレビュー・課題評価

3. 課題評価シートの詳細

課題評価の流れ【1.自己点検】

【12月】

【翌年3月末】



1) 評価項目・評価基準を準用して「③自己点検報告書(案)」を作成

【自己点検の視点】

PD	評価項目・評価基準を準用し、(A)研究開発責任者及び研究推進法人等による自己点検の結果や、(B)関係省庁や産業界における社会実装に向けた取組状況を踏まえ自己点検報告書を作成。
研究推進法人(PM)	予算の管理、研究開発テーマの進捗管理、研究開発テーマの実施支援など研究推進法人等のマネジメント業務について自己点検を実施。
研究開発責任者	研究開発テーマの目標に基づき研究開発や実用化・事業化の進捗状況について自己点検を実施。

自己点検報告書（案）

- S I P 評価に関する運用指針の評価項目 A (課題目標の達成度と社会実装)、B (課題マネジメント・協力連携体制)を準用した自己点検報告書(案)を作成。
- 達成度と社会実装は、課題全体と、各研究開発テーマごと(サブ課題ごと)に分けて記載。

対外秘／取扱厳重注意

(様式案)

令和 X 年度

戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) 第 3 期
プログラムディレクター (P D) の自己点検結果報告書
(素案)

課題名：◆◆◆◆

202X 年 X 月 XX 日

※はじめのページに目次を付けて頂きますようお願いいたします。

1 課題全体の目標の達成度と社会実装

※課題全体に対して、「S I P 評価に関する運用指針」(令和 4 年 12 月 23 日ガバナリングボード決定)の評価項目 A (課題目標の達成度と社会実装)について、記載してください。

- (1) 意義の重要性、S I P 制度との整合性
- (2) ミッションの明確化
- (3) 目標設定・ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性
- (4) 個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ
- (5) 研究開発テーマの設定目標に対する達成度
- (6) 社会実装に向けた取組状況
- (7) 研究成果の社会実装及び波及効果の見込み
- (8) 対外的発信・国際的発信と連携
- (9) その他
※上記以外に、課題目標の達成度と社会実装の観点から特筆すべきこと。

2 各研究開発テーマの概要と課題目標の達成度・社会実装

※研究開発テーマ(「戦略及び計画」におけるサブ課題)ごとに、研究内容、目標を記載し、「S I P 評価に関する運用指針」(令和 4 年 12 月 23 日ガバナリングボード決定)の評価項目 A (課題目標の達成度と社会実装)について、記載してください。

(1) 研究開発テーマ A

- 1) 研究内容
- 2) 目標
- 3) 課題目標の達成度と社会実装

2

3

4

1. SIP評価に関する運用指針

2. 課題評価の流れ

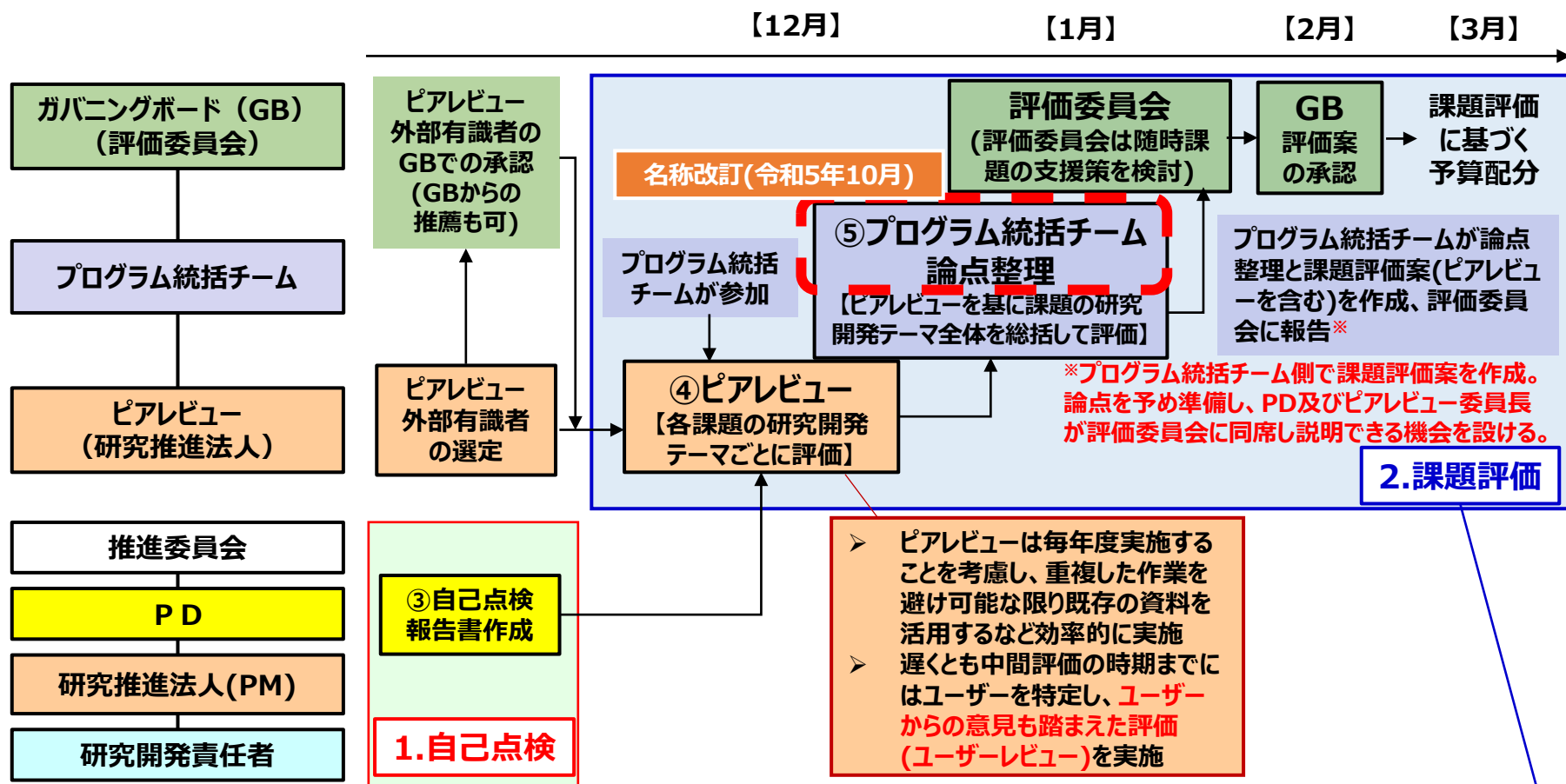
2-1. 自己点検

2-2. ピアレビュー・課題評価

3. 課題評価シートの詳細

課題評価の流れ【2.課題評価】

改訂(令和5年10月)

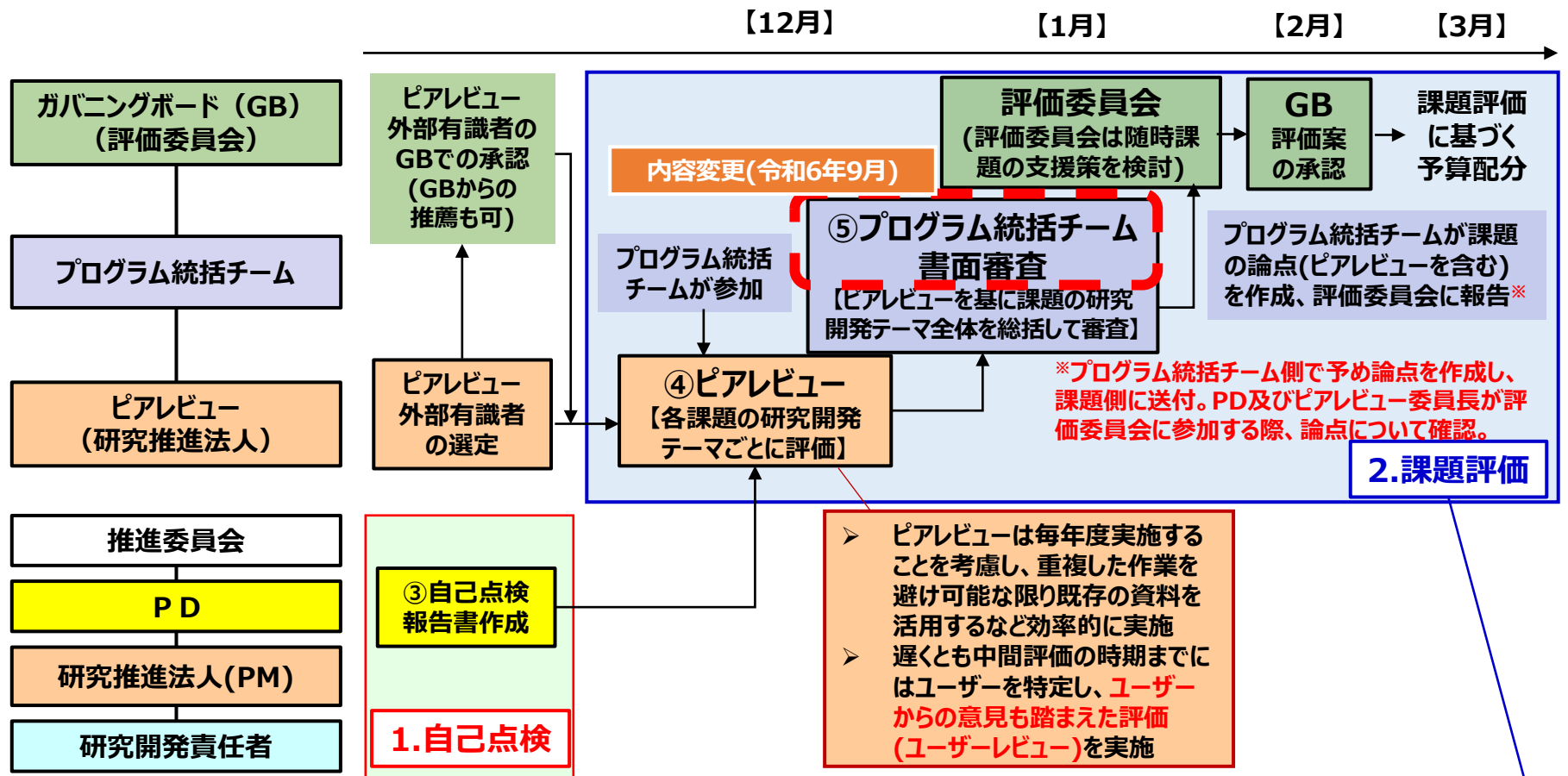


【課題評価の視点】

ガバニングボード (GB) (評価委員会)	経済・社会情勢を踏まえた課題の設定・見直し、社会実装に向けた課題の予算配分、関係省庁・産業界等との協議（社会実装に向けた課題の運営を積極的に後押し）。
プログラム統括チーム	制度的・課題横断的な評価（社会実装、ビジネス、知財、データ、国際標準、制度・ルール、人材等）ピアレビューに参加し、重複なく効率的に評価を実施。
ピアレビュー (研究推進法人)	専門的観点からの技術評価の実施。 成果のユーザーを特定しユーザー視点から評価（ユーザーレビュー）の実施。

課題評価の流れ【2.課題評価】

改訂(令和6年9月)



【課題評価の視点】

ガバニングボード (GB) (評価委員会)	経済・社会情勢を踏まえた課題の設定・見直し、社会実装に向けた課題の予算配分、関係省庁・産業界等との協議 (社会実装に向けた課題の運営を積極的に後押し)。
プログラム統括チーム	制度的・課題横断的な評価 (社会実装、ビジネス、知財、データ、国際標準、制度・ルール、人材等) ピアレビューに参加し、重複なく効率的に評価を実施。
ピアレビュー (研究推進法人)	専門的観点からの技術評価の実施。 成果のユーザーを特定しユーザー視点から評価 (ユーザーレビュー) の実施。

- **ピアレビューを活用した事前評価【12月迄】**
 - ・ピアレビューは**研究開発テーマごと**に**ピアレビュー委員**が実施。
 - ・ピアレビューの**総括評価の場**に**プログラム統括チーム**が参加。
 - ・PDはピアレビューの結果を整理し、プログラム統括チームに提出。

名称改訂(令和5年10月)

- **プログラム統括チームによる論点整理【1月上旬予定】**
 - ・プログラム統括チーム構成員は、自己点検報告書およびピアレビュー結果に基づき評価シートを用いて各課題の**評価コメント**を記載。
 - ・構成員の各評価コメントを整理し、**プログラム統括チームとしての評価案**を作成。また、構成員の評価の中から**論点**を抽出、整理。これらを事前に**PDならびにピアレビュー委員長**に通知（PDからヒアリングを行うこともある）。

- **評価委員会【1月下旬予定】**
 - ・プログラム統括チームが**評価案と論点**を評価委員会にて報告。これらについて**PD及びピアレビュー委員長**が評価委員会に同席し、意見交換が可能な機会も設定。
 - ・事務局が**評価案に基づいて作成した予算案**を評価委員会にて報告。委員会で、**評価案とそれに基づいた予算案の妥当性を決定**。

- **ガバニングボード【2月上旬予定】**
 - ・ガバニングボードへ**評価結果と論点、それに基づいた予算案の妥当性**を報告

➤ ピアレビューを活用した事前評価【12月迄】

- ・ピアレビューは研究開発テーマごとにピアレビュー委員が実施。
- ・ピアレビューの総括評価の場にプログラム統括チームが参加。
- ・PDはピアレビューの結果を整理し、プログラム統括チームに提出。

内容変更(令和6年9月)

➤ プログラム統括チームによる書面審査【1月中旬予定】

- ・プログラム統括チーム構成員は、自己点検報告書およびピアレビュー結果に基づき評価シートを用いて各課題の評価及び評価委員会で確認すべき論点を記載。
- ・各構成員のコメントを整理し、プログラム統括チームとしての評価案を作成。また、構成員の評価の中から論点を抽出、整理。これらを事前にPDならびにピアレビュー委員長に通知。

➤ 評価委員会【1月下旬予定】

- ・プログラム統括チームが評価案と論点を評価委員会にて報告。これらについてPD及びピアレビュー委員長が評価委員会に同席し、意見交換が可能な機会も設定。
(プログラム統括チームも意見交換に参加参加)
- ・事務局が評価案に基づいて作成した予算案を評価委員会にて報告。委員会で、評価案とそれに基づいた予算案の妥当性を決定。

➤ ガバニングボード【2月上旬予定】

- ・ガバニングボードへ評価結果と論点、それに基づいた予算案の妥当性を報告

課題評価の流れ【2.課題評価】(補足)

補追(令和5年10月)

自己点検 (PD)

提出者	活動成果物	提出物
PD	<ul style="list-style-type: none"> PMと研究開発責任者の自己点検を参考に、課題全体の観点での点検結果 次年度計画と予算 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検報告書 (PD) 次年度計画と予算

SIP評価委員会

説明者と説明内容 (評価対象情報)	活動内容	提出物
【PD/ピアレビュー委員長】 <ul style="list-style-type: none"> 課題説明資料 評価シート 等 	以下に係る評価案と、予算案の妥当性の決定 <ul style="list-style-type: none"> 当年度のPDマネジメント 次年度全体計画 	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果 論点 予算案の妥当性

ガバニングボードで承認

ユーザーレビュー
(遅くとも3年目)

ピアレビュー (総括評価)

提出者	活動成果物	提出物
ピアレビュー委員長	<ul style="list-style-type: none"> サブ課題ごとの当年度活動のピアレビュー結果 サブ課題ごとの次年度計画の妥当性 (予算積算根拠含む) 評価結果 	<ul style="list-style-type: none"> ピアレビュー結果報告書と評価シート (次年度計画の評価と計画に対する予算の適切性含む)

※ピアレビュー総括評価にはプログラム統括チームも同席し、以下を行う

- 課題の今年度活動と成果、来年度計画、ピアレビュー結果を把握する。
- ピアレビューのプロセスの妥当性を評価する。問題があれば (eg.評価の根拠が不明瞭、SIPの要件に反している等) 意見を述べる、または質問する。
- 横断的視点からの意見を述べる、または質問する

内閣府課題担当

事務局 (SIP総括)

※評価案に基づいて作成した予算案を追加

事務局 (SIP総括)

プログラム統括チームによる論点整理

評価対象情報	活動内容	提出物
<ul style="list-style-type: none"> 自己点検報告書 (PD) ピアレビュー結果報告書 (総括評価) と評価シート 課題説明資料 ※PDからヒアリングを実施 	以下に係る評価案と論点の作成 <ul style="list-style-type: none"> 当年度のPDマネジメント 次年度計画 (次年度予算含む) ピアレビューのプロセスの妥当性評価と評価のレベル合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 評価案 (予算含む) 論点

※評価案作成の参考とする

課題評価の流れ【2.課題評価】(補足)

変更(令和6年9月)

自己点検 (PD)

提出者	活動成果物	提出物
PD	<ul style="list-style-type: none"> PMと研究開発責任者の自己点検を参考に、課題全体の観点での点検結果 次年度計画と予算 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検報告書 (PD) 次年度計画と予算

SIP評価委員会

説明者と説明内容 (評価対象情報)	活動内容	提出物
【PD/ピアレビュー委員長】 <ul style="list-style-type: none"> 課題説明資料 評価シート 等 	以下に係る評価案と、予算案の妥当性の決定 <ul style="list-style-type: none"> 当年度のPDマネジメント 次年度全体計画 	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果 論点 予算案の妥当性

ガバニングボードで承認

ユーザーレビュー
(遅くとも3年目)

ピアレビュー (総括評価)

提出者	活動成果物	提出物
ピアレビュー委員長	<ul style="list-style-type: none"> サブ課題ごとの当年度活動のピアレビュー結果 サブ課題ごとの次年度計画の妥当性 (予算積算根拠含む) 評価結果 	<ul style="list-style-type: none"> ピアレビュー結果報告書と評価シート (次年度計画の評価と計画に対する予算の適切性含む)

事務局 (SIP総括)

※評価案に基づいて作成した予算案を追加

事務局 (SIP総括)

プログラム統括チームによる書面審査

評価対象情報	活動内容	提出物
<ul style="list-style-type: none"> 自己点検報告書 (PD) ピアレビュー結果報告書 (総括評価) と評価シート 課題説明資料 	以下に係る評価案と論点の作成 <ul style="list-style-type: none"> 当年度のPDマネジメント 次年度計画 (次年度予算含む) ピアレビューのプロセスの妥当性評価と評価のレベル合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 評価案 (予算含む) 論点

※評価案作成の参考とする

※ピアレビュー総括評価にはプログラム統括チームも同席し、以下を行う

- 課題の今年度活動と成果、来年度計画、ピアレビュー結果を把握する。
- ピアレビューのプロセスの妥当性を評価する。問題があれば (eg.評価の根拠が不明瞭、SIPの要件に反している等) 意見を述べる、または質問する。
- 横断的視点からの意見を述べる、または質問する

課題評価の各段階での評価区分

改訂(令和5年10月)

A. 課題目標の達成度と社会実装		①自己点検 (研究開発責任者用) ②自己点検(PM用)	③自己点検報告書 (①②を基にPDが 作成。ひな型はCSTI 事務局側で準備)	④ピアレビュー (研究推進法人等によ るピアレビューを実施)	⑤課題評価シート (プロジェクト統括チームが シートを作成。評価案を 評価委員会で検討)		
A-1	意義の重要性、SIP制度との整合性	<p>PD・研究推進法人・研究開発責任者間の合意書に基づいて評価分担を課題で決定</p>	○	<p>①②の自己点検を基に 自己点検報告書をPDが作成</p>	<p>研究開発各テーマごとに研究推進法人等によるピアレビューを実施</p>	○	<p>③の自己報告書や、他の課題評価を参考に当該課題を評価</p>
A-2	ミッションの明確化		○			○	
A-3	目標設定・全体ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性		○			○	
A-4	個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ		○			○	
A-5	研究開発テーマの設定目標に対する達成度		○			○	
A-6	社会実装に向けた取組状況		○			○	
A-7	研究成果の社会実装及び波及効果の見込み		○			○	
A-8	対外的発信・国際的発信と連携		○			○	
A-9	その他		○			○	
B. 課題マネジメント・協力連携体制							
B-1	課題目標を達成するための実施体制		○	—	○	<p>③の自己報告書や、他の課題評価を参考に当該課題を評価</p>	
B-2	府省連携		○	—	○		
B-3	産学官連携、スタートアップ		○	—	○		
B-4	課題内テーマ間連携		○	—	○		
B-5	SIP課題間連携		○	—	○		
B-6	データ連携		○	—	○		
B-7	業務の効率的な運用		○	—	○		
B-8	その他		○	—	○		
ピアレビュー(技術評価)							
	ピアレビューに関する項目	—	—	毎年度実施	比 ¹ 結果を活用		
	ユーザーレビューに関する項目	—	—	遅くとも3年目迄に実施 (早期に行うことを推奨)	比 ¹ 結果を活用		

1. SIP評価に関する運用指針
2. 課題評価の流れ
 - 2-1. 自己点検報告書
 - 2-2. ピアレビュー・課題評価
3. 課題評価シートの詳細

課題評価シート(案): A.課題目標の達成度と社会実装

評価項目	評価内容	評価基準	評価入力	評価者コメント	配点(最高点)			
					初年度(※1)	2,3年度	4,5年度	
A-1	意義の重要性、SIP制度との整合性	各項目毎に評価内容の説明(6・7頁参照)	評価基準に関する説明(20頁参照)	左の評価基準に基づき、評価者が各項目ごとに入力	評価者が必要に応じて入力	評点×3	評点×2	評点×1
A-2	ミッションの明確化					〃	〃	〃
A-3	目標設定・全体ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性					〃	〃	〃
A-4	個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ					〃	〃	〃
A-5	研究開発テーマの設定目標に対する達成度					評点×1	〃	評点×3
A-6	社会実装に向けた取組状況					〃	〃	〃
A-7	研究成果の社会実装及び波及効果の見込み					〃	〃	〃
A-8	対外的発信・国際的発信と連携					〃	〃	〃
A-9	その他					評点×1	評点×1	評点×1

(※1)課題目標のアジャイルな修正に伴い、途中の年度で新たな研究開発項目を公募し採択・推進する場合は、採択年を初年度とした配点を想定

- 初年度は「目標設定」に関するA-1～A-4を重視。
- 年度経過に伴い「達成度」に関するA-5～A-8を重点評価。

評価基準(案): A.課題目標の達成度と社会実装

第3期SIP事前評価での評価基準(R4年度)

評価基準	
S	非常に優れている
A	優れている
B	満たしている
C	満たしていない



第3期SIPでの評価基準案(R5年度以降)

評価基準 (評点)		(A-1)~(A-4) 「目標設定」に関する補足説明	(A-5)~(A-9) 「達成度」に関する補足説明
5 (S)	Excellent	極めて挑戦的な高度な課題目標が設定されている。	設定された目標を達成し、社会実装も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。
4 (A+)	Very Good	高度な課題目標が設定されている。	設定された目標を達成し、社会実装も見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。
3 (A)	Good 【3を基準に 加点/減点】	課題目標の設定が適切である。	設定された目標を概ね達成しており、概ね当初の予定どおりの成果が得られている。
2 (A-)	Fair	課題目標の設定が概ね適切であるが、いくつか弱点がある。	目標を概ね満たしているが、いくつか弱点があり、予定を下回る成果となっている。
1 (B)	Poor	課題目標の設定が不十分で、深刻な弱点がある。	目標の達成が不十分で、深刻な弱点があり、予定を大幅に下回る成果となっている。
0 (C)	-	課題目標の設定が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。	目標の達成が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。

- SIP事前評価(R4年度実施)では4段階基準。各基準の補足説明がなく、特に「B」と「C」の判定が不明瞭。
- EU Horizon Europeでは基準値「3(A)」を設け、加点/減点により「5(S)~0(C)」で評価。これを参考に目標設定(A-1~A-4)と達成度(A-5~A-9)に分けて評価基準を新たに設定し、補足説明を明記。

課題評価シート(案): B.課題マネジメント・協力連携体制

評価項目	評価内容	評価基準	評価入力	評価者コメント	配点(最高点)			
					初年度(※1)	2,3年度	4,5年度	
B-1	課題目標を達成するための実施体制	各項目毎に評価内容の説明(9頁参照)	評価基準に関する説明(22頁参照)	左の評価基準に基づき、評価者が各項目ごとに入力	評価者が必要に応じて記載	評点×2	評点×2	評点×2
B-2	府省連携					〃	〃	〃
B-3	産学官連携、スタートアップ					〃	〃	〃
B-4	課題内テーマ間連携					〃	〃	〃
B-5	SIP課題間連携					〃	〃	〃
B-6	データ連携					〃	〃	〃
B-7	業務の効率的な運用					〃	〃	〃
B-8	その他					評点×1	評点×1	評点×1

(※1)課題目標のアジャイルな修正に伴い、途中の年度で新たな研究開発項目を公募し採択・推進する場合は、採択年を初年度とした配点を想定

➤ 年度経過に関わらず、同配点で評価。

評価基準(案): B.課題マネジメント・協力連携体制

第3期SIP事前評価 での評価基準(R4年度)

評価基準	
S	非常に優れている
A	優れている
B	満たしている
C	満たしていない

第3期SIPでの評価基準案(R5年度以降)

評価基準 (評点)		(B-1)~(B-8) 「課題マネジメント・協力連携体制」に関する補足説明
5 (S)	Excellent	極めて優れた課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。
4 (A+)	Very Good	優れた課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。
3 (A)	Good 【3を基準に 加点/減点】	適切な課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。
2 (A-)	Fair	課題マネジメント・協力連携体制が概ね適切であるが、いくつか弱点がある。
1 (B)	Poor	課題マネジメント・協力連携体制が不十分で、深刻な弱点がある。
0 (C)	-	課題マネジメント・協力連携体制が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。



- SIP事前評価(R4年度実施)では4段階基準。各基準の補足説明がなく、特に「B」と「C」の判定が不明瞭。
- EU Horizon Europeでは基準値「3(A)」を設け、加点/減点により「5(S)~0(C)」で評価。これを参考に課題マネジメント・協力連携体制(B-1~B-8)に関して評価基準を新たに設定し、補足説明を明記。

課題評価シートのイメージ

第3期SIP課題の評価シート [A.課題目標の達成度と社会実装]					資料3
課題名称:					
評価者:					
評価項目	評価内容	評価基準	評価入力	評価者コメント	
SIP要件	要件(別紙)				
A-1	意義の重要性、SIP制度との整合性、SIP制の度との整合性、技術開発の図れているか。	資料3			
A-2	ミッションの明確化、将来像の実関係省庁をのりであるか。				
A-3	ミッションで、技術だけいるか。抽出した取目標設定、SIPの研全体ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性				
A-4	個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ				
第3期SIP課題の評価シート [B.課題マネジメント・協力連携体制]					
課題名称:					
評価者:					
評価項目	評価内容	評価基準	評価入力	評価者コメント	
B-1	課題目標を達成するための実務体制	・PD、SPD、研究推進法人の役割分担と、それに見合う配置が図られているか。 ・メンバーの配置や役割分担について明確に構造化が図られているか。知財・国際標準・規制改革に関する専門家や、社会実装に関する業務の担当者等が配置されているか。 ・研究開発テーマ設定時の前提条件の変更や研究成果の達成状況に応じて、研究開発テーマの方向性の再検討やアジャイルな修正が生じた際に、関係者間で合意形成を図る流れが明確になっているか。 ・消費者視点での社会的受容性の観点や多様な観点から運営を推進するため、SPDや研究開発テーマ責任者等に若手や女性などダイバーシティを考慮したチーム構成計画としているか。 【必須要素】ダイバーシティを考慮したチーム構成計画は必須とする。	5~0点での評価(3を基準に加点/減点)。 5(S) 極めて優れた課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。		
B-2	府省連携	・関係府省の担当者を巻き込み、各府省の協力・分担が明確な体制になっているか。 ・各府省等で実施している関連性の高い研究開発プロジェクトとの連携が図られているか。 【必須要素】関係府省の事業との関係性をマッピングするなど経路がなされ、重複が無いようSIP以外の事業との区分けは出来ているか。	4(A+)	優れた課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。	
B-3	産学官連携、スタートアップ	・社会実装に向けた産業界の意欲・貢献を促すべく、産学官連携が機能する体制が構築されているか。研究成果の利用者は明確となっているか。 ・マッチングファンド方式の適用に向けた検討がされているか。 【加点要素】マッチングファンドの取組が推進されていれば加点対象とする。 ・本来、民間企業で行うべきものに国費を投じていないか。 ・マネジメント体制の中にスタートアップ関係者が配置されているか。	3(A) 2(A-)	適切な課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。 課題マネジメント・協力連携体制が概ね適切であるが、いくつか弱点がある。	
B-4	課題内テーマ間連携	・研究開発テーマ間での連携やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に研究開発テーマ間の連携に必要な担当者が配置されているか。	1(B)	課題マネジメント・協力連携体制が不十分で、深刻な弱点がある。	
B-5	SIP課題間連携	・他のSIP課題間での連携やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に他のSIP課題間の連携を担当する者が配置されているか。 【必須要素】他のSIP課題間での連携の検討は必須とする。	0(C)	課題マネジメント・協力連携体制が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。	
B-6	データ連携	・研究開発テーマ間や、他のSIP課題間でのデータ連携が検討・実施されているか。 ・既存のデータプラットフォームとの連携の可能性は検討されているか。 【必須要素】データ連携の検討(DMPの策定、DMPに基づく管理対象データの適切な保存、オープン・アンド・クローズ戦略に基づく公開・共有の検討)は必須とする。	75~0点での表示(自動で計算し表示)		
B-7	業務の効率的な運用	・オンラインツールの活用など業務の効率的な運用が実施されているか。 ・ベストプラクティスの共有、活用などが実施されているか。			
B-8	その他	・課題の特性や状況に応じ、上記の(B-1)~(B-7)以外に、マネジメントの観点から評価すべきこと(プラス評価になること)があれば追加可。			
B:課題マネジメント・協力連携体制	(B-1)~(B-8)の各評価入力の合計値の表示(加重式配点を考慮)				

- 評価項目A, Bごとに課題評価シートを作成。
- インセンティブに繋がる項目を【必須要素】として追記。

総合評価について

- 「A群(A-1)～(A-9)」と「B群(B-1)～(B-8)」の評価の合計値を基に、自動でランクを表示。
- 総合評価としてのコメントがあれば欄に記載する。
- なお、満点160点。A,B群の全ての項目を「3点」で評価した場合の合計値(96点: 得点率60%)を基準値とし、6段階のランク付け(S～C)を設定している。
(得点率とは「合計値／満点(160点)」として定義。)

総合評価				
評価項目	評価内容	評価基準	評価表示	評価者コメント
A:課題目標の達成度と社会実装	「A群(A-1)～(A-9)」と「B群(B-1)～(B-8)」の評価の合計値を基に、自動でランクを表示。 総合評価としてのコメントがあれば右欄に記載する。	S: 144点以上(得点率90%以上) A+: 128点以上144点未満(得点率80%～90%) A: 96点以上128点未満(得点率60%～80%)		
B:課題マネジメント・協力連携体制	※満点160点。A,B群の全ての項目を「3点」で評価した場合の合計値(96点: 得点率60%)を基準値とし、6段階のランク付け(S～C)を設定している。 ※得点率とは「合計値／満点(160点)」として定義している。	A-: 64点以上96点未満(得点率40%～60%) B: 32点以上64点未満(得点率20%～40%) C: 32点未満(得点率20%未満)		

得点率	点数	ランク
90%以上	144点以上	S
80%～90%	128点以上144点未満	A+
60%～80%	96点以上128点未満	A
40%～60%	64点以上96点未満	A-
20%～40%	32点以上64点未満	B
20%未満	32点未満	C

合計点を基に
S～Cを自動で表示

ランクを参考に
総合評価として
コメントがあれば
欄に自由記載。

サブ課題の評価について

➤ サブ課題ごとに、研究開発テーマの進展や内容に応じて予算要求額の妥当性を評価する。
(評価欄に文章として記載)

評価項目	評価内容	評価例	評価
サブ課題1 サブ課題名 「○○○○○ ○○○○」	サブ課題ごとに、研究開発テーマの進展や内容に応じて予算要求額の妥当性を評価する。 特に、予算必要額に関連のあるA-4「個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ」、A-5「研究開発テーマの設定目標に対する達成度」を中心に、計画性、進捗度、周辺環境（海外の市場動向、市場の急速な拡大、etc）より評価。	右の評価欄にコメントを記載。 【評価文章の例】 例1) 評価加算を十分に配分し、サブ課題の推進を強力に加速すべき。 例2) 前年度並みの推進を行うべき。 例3) 基礎予算程度で推進すべき	
サブ課題2 サブ課題名 「○○○○○ ○○○○」			
サブ課題3 サブ課題名 「○○○○○ ○○○○」			
サブ課題4 サブ課題名 「○○○○○ ○○○○」			
	(サブ課題の数に応じて、上枠を)		

【評価文章の例】

例1) 評価加算を十分に配分し、サブ課題の推進を強力に加速すべきである。

例2) 前年度並みの推進を行うべき。

例3) 基礎予算程度で推進すべき

※理由も簡単に付記いただきたい